



講師 京都府スーパーサポートセンター  
作業療法士 濱瀬 由加里  
視覚支援担当 森上 和  
聴覚支援担当・コーディネーター 今川 桂介

25年度、第1回の公開講座は、上記のテーマのもとに、まずSSCの作業療法士である濱瀬より子ども達の発達と関連するからだ(感覚統合等)の見方や指導方法について話をさせていただきました。次に、視覚担当・聴覚担当、発達障害担当もまじえて、仮のアセスメント票をもとに参加の方々とともにケースカンファレンスを行いました。そこで、それぞれの視点からの見立てと支援の方向性について話し合いを進め、多角的な視点から子どもを見ることの大切さを共通理解しました。当日は、府立舞鶴支援学校を会場にお借りし、北部地域の先生方にもたくさんお越しいただくことができました。

## <講座の内容>

### 1 講義Ⅰ「就学前からの多角的アプローチと保護者支援」 講師：濱瀬由加里

- ① 感覚とその役割について
- ② 筋緊張、感覚欲求、調整障害について
- ③ 脳の抑制機能について
- ④ 保護者支援の大切さ など



### 2 講義Ⅱ 『支援事例から考える多角的なアセスメント』 講師：濱瀬由加里 森上和 今川桂介

- ① ケース児童のアセスメント票の説明
- ② アセスメント票の中にあるエピソードからのケース児童に対する見立て  
(作業療法士、視覚担当、聴覚担当、発達障害担当のそれぞれの視点からの解釈)
- ③ 見立てから考えられる支援の方向性

アセスメント票に書かれているエピソードからは、一見「自閉症スペクトラム」や「ADHD」といった発達障害の要素が感じられますが、実は視覚障害や聴覚障害のある子どもにも重なるエピソードがたくさんあります。

(例1:「相手との距離が近く、相手の反応を読むのが難しい」⇒自閉症?、視覚障害?)

(例2:「自分のペースでしか話さないで、話がずれることが多い」⇒自閉症?聴覚障害?)

就学前の子ども達に対しては、様々な視点からアセスメントをすることで、早期発見、早期対応の可能性が高まります。1つの視点、一人の目線からだけでなく、多くの視点から子どもをアセスメントすることで、適切な支援に結び付けることが大切です。

## アンケートより

・そうか!と初めてわかること、自分が保育の中でやってきたことは、こういう意味にもつながっていたんだと思うことがいろいろありました。とても勉強になりました。



・つい1つの見方で見ることが多かったです。聴覚的、視覚的に見えにくいことで苦労しているのかもしれないと意識を持って、今支援している子をあらためて見ていき、その子にとって良い支援を相談機関、保護者ともに連携を密にしながらかえていきたいです。